

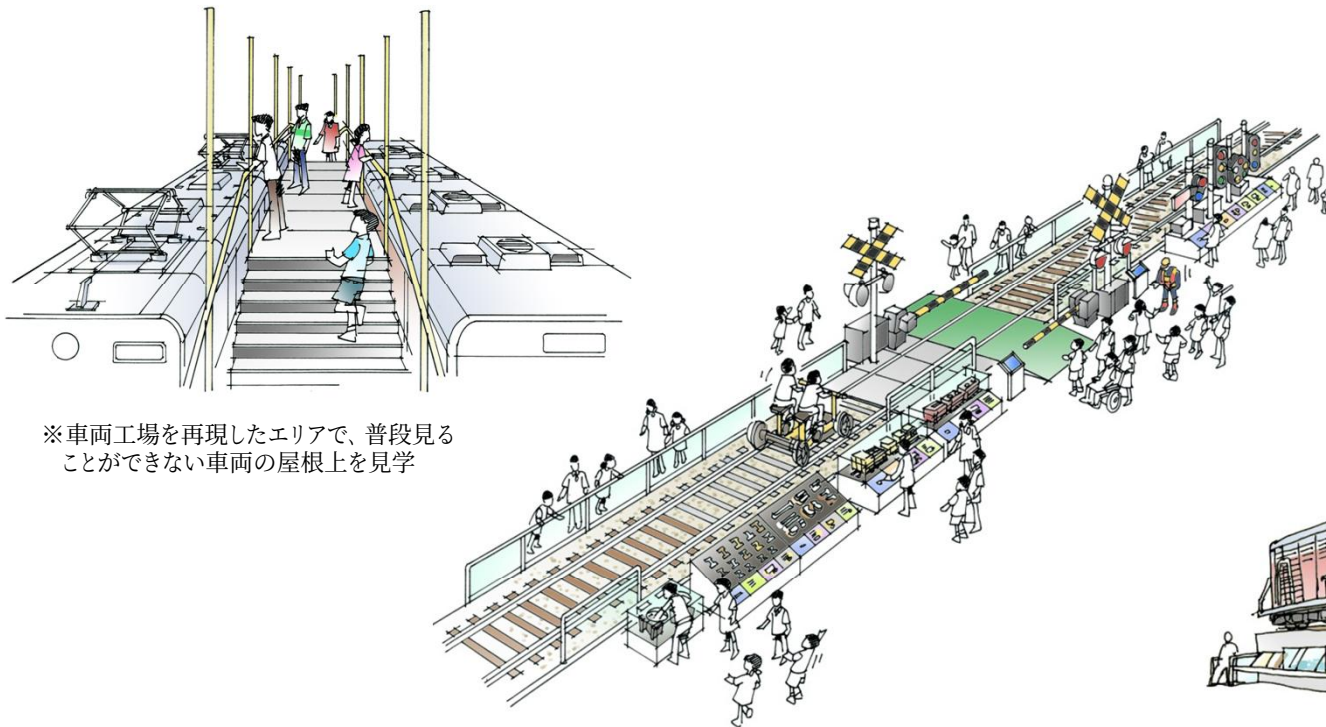
(仮称) 京都鉄道博物館概要

平成25年11月18日

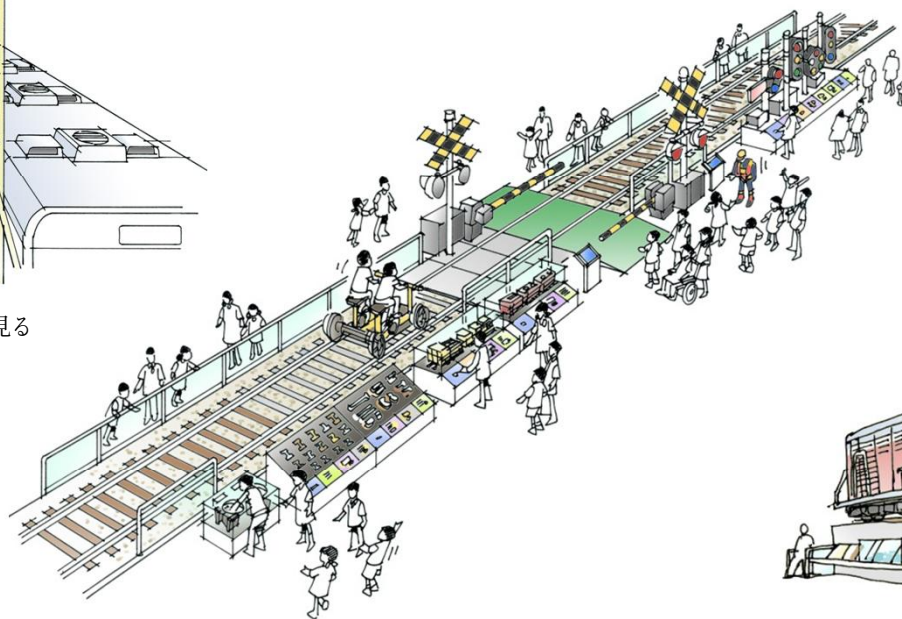
西日本旅客鉄道株式会社

地域と歩む鉄道文化拠点

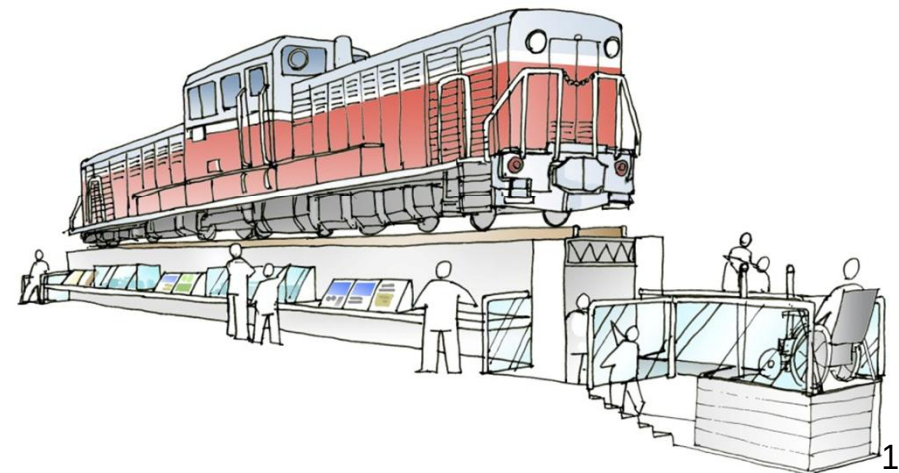
- 鉄道に特化した、『科学系博物館』
- 博物館展示とSL体験乗車を同一施設で提供
- 体験展示にこだわった構成 【見る,触る,体験】
- 鉄道の仕組みを通じて各コーナーで安全の取組みを訴求



※車両工場を再現したエリアで、普段見ることができない車両の屋根上を見学



※本館内の展示用線路で線路にまつわる仕事を紹介



※機関車をかさ上げ展示し、機関車のメカニズムを解説

目指す姿

『地域と歩む鉄道文化拠点』

「鉄道を基軸とした事業活動を通じて地域の活性化に貢献する」というJR西日本の基本ミッションに鑑み、地域との共生を目指します。

お客様……………	鉄道の総合博物館として、鉄道ファンをはじめ家族で楽しめる学びの場を提供します。
地域……………	学校教育、周辺施設、地域との連携を図り、地域の活性化に寄与します。
社会……………	鉄道事業の社会的意義の浸透や鉄道文化活動を通じ、鉄道に対する理解の促進とイメージアップに貢献します。
JR西日本…………	鉄道の安全性や技術を伝える場を創出し、社員とお客様のコミュニケーションを通して、顧客満足度向上に貢献します。

■4つの方針

- 展 示…………… 実物の機関車や電車、動態保存SLなど”本物の鉄道”を実感していただきます
- 運 営…………… お客様とのコミュニケーションを重視して、知る楽しさ、おもてなし、体験を提供することにより良質なサービスを実現します
- 集 客…………… 子どもの頃から大人まで繰り返し来館する“生涯博物館”を目指し、市民共生型の鉄道文化拠点を創造します
- 連 携…………… 京都“梅小路ブランド”創造のため、地域と連携し取り組み、沿線の文化的価値の向上を図ります

施設概要

○所在地 京都市下京区観喜寺町3番地14 ほか
○開業予定 平成28年春(事業期間30年以上の予定)

○施設構成 エントランス棟
プロムナード棟
本館
屋外上屋
扇形車庫※
旧二条駅舎※

※は現蒸気機関車館施設

○収蔵車両数 50両(予定)

○総事業費 約70億円
※設計費、建設工事費、展示工事費
車両運搬費用を含む
※うち設計費、建設工事費は約36億円

○営業時間 10:00~17:30(予定)

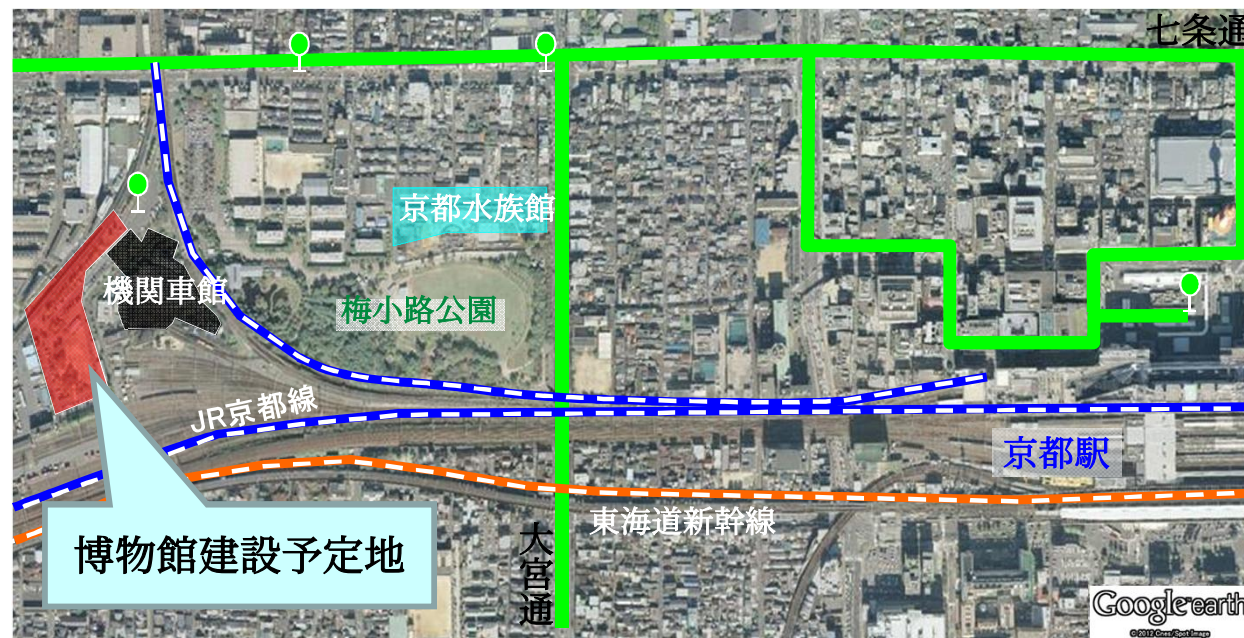
○休館日 水曜日(予定)
※春休み、夏休み時期は開館

○入館料 開館当初の入場料金は、現時点で大人1,000円、子供500円を予定し、今後市況等を勘案して設定します。
また、開館後は状況に応じて適宜料金設定を行います。
※団体料金などについては別途制定
※現蒸気機関車館と一体での運営

○アクセス

JR京都線京都駅から徒歩20分または市バス205系統等で「梅小路公園前」下車、徒歩5分
または嵯峨野線丹波口駅から徒歩15分
※土・休日 京都駅から「水族館シャトル」有り、「梅小路公園」下車すぐ
※京都市の「歩くまち・京都」の取組みを考慮し、徒歩、公共交通機関の利用を促進します。

○MAP



凡例



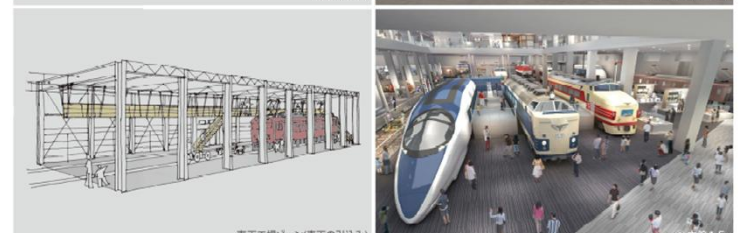
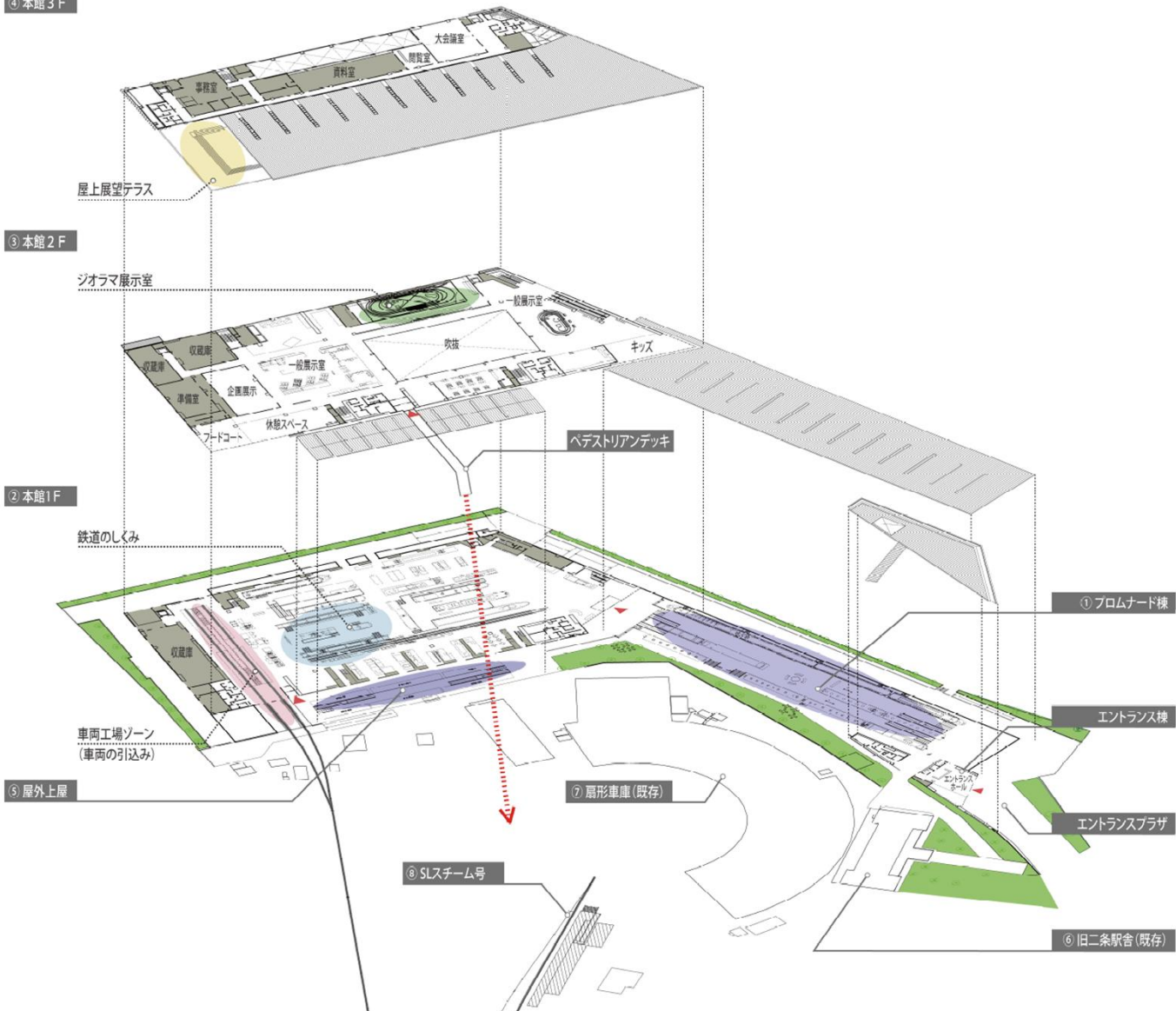
バス停



バス路線

5

④ 本館3F



◎施設構成

- | | |
|----------|------------------------------------|
| ①プロムナード棟 | : SL、電車、新幹線をそれぞれ連結した状態で展示 |
| ②本館1F | : 鉄道の歴史、鉄道のしくみ、車両工場ゾーン、営業車両等の引込線 |
| ③本館2F | : ジオラマ、運転シミュレーター、駅体験、キッズスペース、企画展示室 |
| ④本館3F | : 調査研究スペース（資料室）、会議室、展望テラス |

- ⑤屋外上屋 :旧京都駅0番ホーム上屋トラス構造展示、収蔵車両展示
- ⑥旧二条駅舎 :SLのしくみを中心に展示
- ⑦扇形車庫 :保存蒸気機関車群の展示
- ⑧SLスチーム号 :SLスチーム号体験乗車、SL整備(給水、給炭)の展示

○施設について

- ・梅小路公園および周辺地域の景観や眺望に配慮した施設計画とし、敷地内の緑化面積の確保に努めます。
- ・太陽光発電パネルの設置、屋上緑化など環境に配慮した施設計画とします。
- ・広域避難場所である梅小路公園に立地することから、災害時には避難活動や救援活動に協力します。

■来館者数の予測

○来館者数は類似施設との比較分析の結果、30年間平均で年間80万人と予測している。 ※1

項 目	(仮称) 京都鉄道博物館		梅小路蒸気機関車館	交通科学博物館
		本館(再掲)		
敷地面積	30,016m ² 公園区域内面積16,291m ² (再掲)		13,725m ²	14,374m ²
延床面積	30,435m ² ※2	19,390m ²	11,045m ² ※2	9,033m ²
展示車両数	50両(予定)		19両	21両
年間来館者数	80万人(30年間平均想定)		30万人※3	29万人※3
開業時期	平成28年春開業予定		昭和47年10月開業	昭和37年1月開業

※1 全国の博物館等施設の延床面積、入館料金の比較により予測

※2 転車台、展示運転線の面積を含む

※3 平成24年度実績

■入館料金の設定

○開館当初の入場料金は、現時点で大人1,000円、子供500円を予定し、今後市況等を勘案して設定します。また、開館後は状況に応じて適宜料金設定を行います。

【参考】全国の鉄道系博物館の入館料金 (出典:各施設公式HPより)

博物館名	所在地	料 金 設 定		
鉄道博物館	さいたま市大宮区	大人 1,000円	小中高生 500円	幼児(3歳以上) 200円
リニア・鉄道館	名古屋市港区	大人 1,000円	小中高生 500円	幼児(3歳以上) 200円
碓氷峠鉄道文化むら	群馬県安中市	大人(中学生以上) 500円	小学生 300円(小学生未満無料)	
梅小路蒸気機関車館	京都市下京区	大人(高校生以上) 400円	小人(4歳以上) 100円	
交通科学博物館	大阪市港区	大人(高校生以上) 400円	小人(4歳以上) 100円	
九州鉄道記念館	北九州市門司区	大人 300円	中学生以下 150円(4歳未満無料)	

■新博物館の運営

新博物館はJR西日本が所有し、(公財)交通文化振興財団に運営・管理を委託します。
(公財)交通文化振興財団は、財団に所属する学芸員の知見を活かし、新博物館の充実を図ります。
JR西日本は社会貢献活動として鉄道文化活動を実施しており、新博物館はその一つとして実施します。

※(公財)交通文化振興財団は平成25年度現在、交通科学博物館、梅小路蒸気機関車館の運営・管理をJR西日本から受託しています。

■財団による博物館運営収支想定【30年間平均】

(単位:百万円)		
記事		
収入	450	
博物館運営委託料	430	JRから財団への運営委託料
関連事業収入	20	物販、飲食による収入
経費	450	
人件費	210	財団職員、アテンドスタッフ人件費
企画展示費用	80	企画展示費用、イベント費用
資料維持費	50	展示資料修繕費、展示車両修繕費
施設維持費	110	消耗備品費、修繕費、清掃費等
差引	0	

※この他にJR西日本は博物館の初期投資費(約70億円)、リニューアル費用(未定)、土地使用料(毎年約3千万円)、諸税を負担します。

※JR西日本には入館料収入が入りますが、入館料の設定は未定です。

開館当初の入場料金は、現時点で大人1,000円、子供500円を予定し、今後市況等を勘案して設定します。

また、開館後は状況に応じて適宜料金設定を行います。

■梅小路を中心とした鉄道文化活動

梅小路蒸気機関車館は開館40周年を迎え、この地に蒸気機関車の拠点ができるまもなく100年。新しい博物館は、これまでの鉄道文化活動の実績と、蒸気機関車保存の拠点、梅小路にある立地を最大限に活かし、魅力ある博物館を目指します。

○沿革

- 1914年(大正 3年) 梅小路機関庫 開設
- 1936年(昭和11年) 梅小路機関庫を梅小路機関区に改称
- 1971年(昭和46年) 山陰線にて蒸気機関車の運転終了
- 1972年(昭和47年) 鉄道100年記念事業として梅小路蒸気機関車館開館
構内での展示運転開始
- 1980年(昭和55年) C57-1号機「SLやまぐち号」として運転開始
- 1987年(昭和62年) 日本国有鉄道から西日本旅客鉄道株式会社に事業継承
- 1992年(平成 4年) 新展示運転線完成
- 1994年(平成 6年) C62-1号機搬入
- 1994年(平成 6年) 第11回全国都市緑化フェアの会場の一部となる
SL体験乗車「SLスチーム号」運転開始
- 1995年(平成 7年) C56-160号機「SL北びわこ号」として運転開始
- 1996年(平成 8年) 「旧二条駅舎」が京都市指定有形文化財の指定を受ける
「旧二条駅舎」移築などリニューアル工事開始
- 1996年(平成 8年) 「SLスチーム号」展示運転を往復1000mとする
- 1997年(平成 9年) 梅小路蒸気機関車館リニューアルオープン
- 2000年(平成12年) 「英国国立鉄道博物館」と姉妹提携
- 2002年(平成14年) 開館30周年を記念してB20-10号機を動態に復元
- 2004年(平成16年) 扇形車庫、天井クレーン、引込線が重要文化財の指定を受ける
- 2006年(平成18年) 梅小路の蒸気機関車群と関連施設が準鉄道記念物の指定を受ける
- 2009年(平成21年) 1070形1080号蒸気機関車が日鉄鉱業株式会社からJR西日本に譲渡され静態で保存展示
- 2012年(平成24年) 梅小路蒸気機関車館開館40周年を迎える
- 2013年(平成25年) 「SLスチーム号」累計200万人乗車達成



■博物館周辺の整備計画

JR西日本は、新たな博物館施設と現在の梅小路蒸気機関車館とを一体として運営いたします。
このため、国の重要文化財に指定されている扇形車庫を将来にわたって保存するため耐震補強工事を施工いたします。

また、JR西日本では、SLやまぐち号に代表される営業用SL2両とSLスチーム号用等構内走行SL5両を動く状態で保存していますが、これらの動態保存環境を改善し動態保存を続けていくためSL整備施設(SL専用検修庫)を新設し蒸気機関車を未来に伝えていきます。

これら周辺設備の整備により、今後も梅小路公園エリアを鉄道文化活動の拠点として活動していきます。

